

令和3年度 第4回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和4年2月24日(木) 開会 午後2時30分 閉会 午後4時00分

2. 開催場所 下呂庁舎3階 3-1会議室

3. 出席者

(1)構成員

市長 山内 登
教育長 細田 芳充
教育委員 河尻 明子
教育委員 富永 京子
教育委員 小口 晃生
教育委員 細江 洋一郎
教育委員 三木 朋哉

(2)市職員 【市長公室事務局】

市長公室長 野村 穰
市長公室企画課長 山本 大誉
市長公室企画課主査 富士井 美佳
市長公室企画課主事 奥村 和

【教育委員会事務局】

教育委員会事務局長 吉田 修
教育委員会学校教育課長 北條 裕也
教育委員会教育総務課長 田添 誠

【社会教育・スポーツ担当部局】

市長公室市民活動推進課長 小林 哲
市長公室市民活動推進課課長補佐 古田 哲也

4. 傍聴人 4人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○山本企画課長

皆様、本日は、大変お忙しいところ、お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます企画課の山本です。どうぞよろしくお願いいたします。本日の出席者のご紹介につきましては、お配りしております名簿で代えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本日は、お手元の次第に基づきまして、「下呂小学校と中原小学校の統合について」と「下呂市教育大綱の最終案について」、の2つの議題について協議いただきます。

なお、本会議は公開が原則となっております。事務局において、本会議の議事録を作成し、後日 HP 上で公開することになりますので、ご理解をお願いいたします。また、本日は、報道各社が取材に来ています。後日、会議の一部についてテレビ放送あるいは記事になる可能性がありますのでご承知おきください。

それではまず初めに、市長からごあいさつを申し上げます。

○山内市長

こんにちは。皆様本日は大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日は報道機関の方が取材に来ておりますが、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思います。コロナに関することになりますが、市内でもオミクロン株が流行しており、なかなか終息しません。感染者数は高止まりの状態が続いていますが、なんとか踏ん張っているのは、皆様の平素からの感染防止対策のご協力のお陰であると感謝申し上げます。学校関係でいいますと、今年に入って子どもの感染が広がっています。学校は学級閉鎖や臨時休業で対応するなどひっ迫した状況です。これから高校受験や大学受験が始まりますので、我々としてもなんとか受験生が受験に集中できるよう、これからも感染防止に向けて取り組んでいきたいと思っております。

本日の議題についてですが、少子高齢化や人口減少、そして子育て支援対策に関係があり、市民の皆様が安心して下呂市で生活するための重要な議題です。我々としても新年度予算にしっかりと反映させて、これらの対策に取り組んでまいりたいと考えております。本日は大変お忙しいなかお集まりいただきました。忌憚のないご意見、またご審議を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○山本企画課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○細田教育長

こんにちは。ご参集いただき誠にありがとうございます。今ほど市長からお話がありましたコロナについてですが、冬休み明けからオミクロン株が流行し、依然として終息を迎えておりません。冬休み明けから数えると40名以上の子どもが感染しています。来週には高校受験を控えておりますので、心配する毎日であります。一日でも早い終息と感染者の方々の回復をお祈りするばかりです。

本日の議題についてですが、教育大綱については今まで我々教育委員会の意見を丁寧にまとめていただいた最終案をご提案されるということです。それに加えて、教育委員会事務局から中原小学校の統合に関する議題を提出しています。昨年8月30日に保護者の方から統合に向かって進んでほしいという要望書を提出いただき、説明会等を行ってきました。本日は最終的なご意見をいただき、市長に統合に関する最終判断をいただくということでお願いをしております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○山本企画課長

ありがとうございました。それでは早速でございますが、議題(1)「下呂小学校と中原小学校の統合について」に入ります。

それでは、教育委員会事務局からご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○吉田教育委員会事務局長

教育委員会事務局長の吉田でございます。よろしくお願いいたします。本日の資料は、右上に総合教育会議資料と記載してあるものと学校統合についての説明会で使用したものの2つの資料がございます。説明会資料については、また時間のある時に目を通していただければと思います。

それでは資料に従って説明させていただきます。1ページ目をご覧ください。これまでの経過を記載しています。令和3年8月30日に中原小学校PTA会長並びに中原子育てプロジェクト代表者の連名で、「中原小学校 下呂小学校との統合に関する要望書」が教育長宛てに提出されております。この要望書を受理した後の経過については、主なものを説明させていただきます。11月24日に中原区で住民の皆様に対する説明会を開催し、35名の方に出席いただきました。内容については、後ほどまとめて説明をさせていただきます。そして、12月15日に中原区長様から下呂市長そして教育長宛てに早期の統合を求める旨の要望書が提出されました。1月12日には、下呂地域自治会連合会におきまして経過の説明と住民説明会の開催方法についてご協議いただいております。1月24日には、下呂小学校PTA本部役員会で経過の説明やどのように保護者の皆様説明するかについての協議をしております。令和4年2月14日、16日、18日の3日間に分けて、PTAの皆様、下呂小校区の住民の皆様への説明会を合同で開催をさせていただきます。参加された方は合計23名とい

うことで少なかったのですが、いろいろなご意見をいただいております。そして、本日2月24日でございますが、第4回下呂市総合教育会議で協議をしているところでございます。

続きまして、2ページをご覧ください。ここではいただいた主なご意見・ご質問をまとめております。こちらは重要な部分ですので、1つずつ読み上げさせていただきます。最初に学校統合全般についてのご意見です。「下呂小学校も決して大きな学校ではなく、中原から来ていただけるのはありがたいと思う。」、こちら下呂地域自治連合会で出た意見でございます。「寂しい気持ちはあるが、子どもたちのことを考えると大きい学校のほうがいい。」、「下呂小の親としてはいいことだと思う。子どもは保育園で一緒だった友達に会いたいと話している。」、「中原小のいいところを持ってきて、下呂小のいいところを知っていただければ。」、「お互いの良いところを交換し合えるような統合になるのが一番大事なことと思う。」、「下呂小の子どもも減ってきているので、ありがたいと単純に思う。」、「下呂地域で理解していただき嬉しく思う。中原では子供たちのためにと苦渋の決断をされた。」というご意見をいただきました。

次に、児童に関してですが、「子どもたちは統合のことを知っているのか。統合に関してどう感じているのか。」、「下呂小へ行くのは不安だと話してくれた子もいる。」、「早めに子どもが慣れるような活動（一緒にスポーツや習い事）を令和4年度に出来ると良い。」、「金山小学校統合での事前交流会はどんな内容だったか。金山小学校での溶け込み具合はどうか。」、「大きい学校へ行って苦勞するのではということ、自分の経験から心配ないと思う。」、「年齢の小さいうちに一緒になるほうが心の負担は小さいのではという意見が多くあった。」、「校区が広がることは視野が広がることになり、下呂小の子どもにとってもプラスになる。」というご意見をいただきました。

また、通学の足については、「子どもたちの通学のバスはどうするのか。大淵と三原の児童のことも合わせて考えてほしい。」というご意見をいただきました。

続いて、地域とのつながりに関して、「学校が無くなったら地域で子育てを考えていく。」、「地区ごとの組織でどういう活動をしていくのかを検討するようにしてほしい。」、「地域の大人が子供を育てていくという意識が大切。」、「統合した後も行事等には積極的に協力したい。」、「中原の良さということを地域で学ぶ。茶摘みなど中原の文化を下呂小の子にも知ってほしい。」というご意見をいただきました。

そして、閉校後の学校施設管理については、「学校施設は市で管理するのか。」というご質問が出ております。

その他でございますが、「統合準備委員会は必要ないと思う。学校評議委員会に幅を持たせたらいいのでは。」、「上原小学校に関して問題ないのか。」、「住民の合意が得られたという判断はどうやって決めるのか。いつの時点か。」、「中原小で見守ってきた先生が下呂小へ異動できれば、子どもたちの心の拠り所になる。」、「コミュニティスクールは、中原が入ることによってどのように進めていけばよいか。」というご意見をいただきました。ご質問、ご意見等は以上でございます。

3ページをご覧ください。今後のスケジュール等について記載しています。本日、この総合教育会議で学校統合について協議した後、次の3項目について下呂市の方針を決定したいと思います。1つ目が、下呂小学校と中原小学校の統合の可否、2つ目が統合後の校舎について、3つ目が統合の期日についてです。本日これらの統合に関する3項目の方針が決定されますと、統合に関する例規の改正、関係条例等についての審議、下呂市議会に学校の設置条例等の改正に関する議案の上程、議会承認後になりますが、統合準備委員会を組織して活動を開始、そして閉校後の学校施設の活用方法についての意見交換会を実施する予定です。最後に、統合準備委員会での協議・確認事項がございますが、今ほど申し上げました説明会でのいろいろなご意見等も含めて協議をしていただくというような形で考えております。

私からの説明は以上でございますが、各委員さんからご意見をいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

○山内市長

1つよろしいですか。教育委員の皆様には統合までの経緯や経過について説明は済んでいますか。

○吉田教育委員会事務局長

はい、その説明はしております。今の内容については、教育委員の皆様にはお伝えしております。

○山本企画課長

吉田事務局長の説明に対して、ご意見はございませんか。細田教育長、お願いします。

○細田教育長

先ほど事務局長が申し上げたとおり、随時の報告は定例教育委員会で行っておりますが、本日は委員の皆様のお考えや声を市長に届けまして、最終的な方針決定をしていただきたいと思います。是非とも、統合に対する思いを今一度お聞かせいただけるとありがたいです。

○山本企画課長

それでは、細江委員をお願いします。

○細江教育委員

まず、中原小学校から合併の話が出たのは3年ほど前だったと思います。中原小の50周年記念を計画している時に、当時のPTA会長から話がありました。その時は、区の意見を聞いて慎重に進めてほしいと話しましたが、PTA会長と子育て委員会が中心となり、そして次

のPTA会長とも綿密な打合せを行ってスムーズに進んでおります。また、当時金山小学校が合併に向けて進んでおりましたので、それを参考にしながら教育委員会に相談する形をとってきました。地元の意見としては、昨年11月に会議を行いまして、大勢の方が参加されました。反対の意見はありませんでしたが、気持ちとしては寂しいという気持ちが大半を占めています。区長さんは中原小学校モニター会議を行うなど一生懸命活動をされてきたので、寂しいという言葉が心に残りました。推計によりますと、3年後の中原小学校の生徒数は10人台になるということです。中原小学校ができた50年前、生徒数は130～140人いました。それが10人台になる。それについてはみんな疑問に思うところがありますが、子ども的人数が減少していることは事実であり現状です。一番の本題は、中原小学校がなくなった時に、子育てはどうするのかということです。下呂小学校の学校運営協議会にも当然参加しますが、中原小学校がなくなることで、今までやっていた資源回収やボランティア活動、そして自然体験や中原を知る活動など、中原小学校が一生懸命やってきたことをどのように存続させればよいのか、そういったことを考えていくべきではないかと思います。それが今後の大きな課題だと思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。その他、ご意見はございませんでしょうか。それでは皆様から順番にご意見をいただきたいと思います。それでは河尻委員からお願いします。

○河尻教育委員

自分は統合に賛成です。金山の4校が統合した後に、PTAや子どもたちから話を聞くと、「人数が増え、遊ぶにも学ぶにも楽しいし、今まで思いもしなかったことができるようになった」という意見を多く頂きます。また、親御さんや学校の先生方が予想もしなかった事柄についても少しずつ理解をし合い解決していると聞いています。

いただいた資料の中で、子どもに関することや地域との関わりに関する事など今の段階で不安に思っていることを、統合の前に解決して安心していただくことが大切だと思います。また、統合した後で徐々に解決し、「やっぱり統合してよかったな」と思っていたこともいいことだと思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。それでは、小口委員をお願いします。

○小口教育委員

自分も統合についてはやむを得ないと思います。自分は教員をしていましたが、岐阜地域から下呂に帰ってきまして、何校か教育施設に勤めましたが、統合と全く関わらなかった学校は0です。萩原南中学校、高根中学校、そして御嶽少年自然の家は閉鎖、そして菅田小学

校では見送りになった統合の時、そして馬瀬小学校では馬瀬中学校の統合に関わりました。このように、いろいろなところで統合に携わってきましたが、それぞれの学校で感じたのは、子どもたちが統合してから明るくなった気がします。そして、学校によっては、女性がひとり、男性がひとりという場合がありますが、統合してからはその子たちに同性の友達ができます。夏休みに一緒に遊んでいる姿を見ると、やはり同性の子と一緒に生活すること、そしていろいろな友達が増えたということをお家でも話すらしいです。そういったことで、保護者の方々も安心しているような気がします。ただ、それを感じるできない地域の方々については、まだ寂しいのではないかと、不安があるのではないかとと思いますが、次第に解消していつか明るい気がします。統合の時にはいろいろな心配がでてきますが、いざ統合してみるとそれぞれがいい方向に進むと思います。子どもたちのことを思うと、中原小学校についても統合はやむを得ないと思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。それでは、富永委員をお願いします。

○富永教育委員

小口委員がおっしゃったように、致し方ないという感想です。人数のこと、男女比を考えると、たくさんのお子たちの中で揉まれて大きくなったほうが子どもには良いと思います。ただ、学校がなくなるということは、やはり地域の方にとっては寂しいことだと思うので、地域での活動をどうするのかということをお考えする必要があります。今までに何校かの統合の例があるのでそれを参考に、地域で子どもたちが活動できる場を作るという解釈でいけばよいと思います。

私が心配していることは、小坂小学校と小坂中学校のように、1つの町に小学校と中学校が一つずつという地区は筒になってしまい、人間関係のクラッシュがない状況になるのではということです。そこは大人の知恵の絞りどころかなと感じます。人口減少のなか、仕方のない方向に向かっているため、それこそ地域全体で子どもを育てるという意味で、大人が知恵を絞るところかなと思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。三木委員をお願いします。

○三木教育委員

今回の統合については、異論はありません。その上で、以前も教育委員会でお話ししましたが、今回の中原小学校と下呂小学校の統合については、中原の子どもは下呂のわかばこども園に行き、小学校は中原小学校へ、そして中学校は下呂中学校という流れなので、下呂小学校と統合するということは自然な流れかなと感じます。しかしながら、単純に通学の距離

からいいますと、中原は金山のほうが近いと聞きました。しかし、保護者の意見が下呂小学校との統合になるということは当然のことかと思えます。富永委員が言われたように、小坂中学校の生徒数も50人程度と非常に少なくなってきています。どこの地域もそのような状況になっている中、下呂市全体の小中学校の統合が保護者の意見だけで通していくと、ある地区のある小学校とある中学校にだけ子どもが集まることになり、バランスが悪くなるのではないかという懸念が生じます。子どもにとっては、どこの地区の子どもと混ざっても順応していけると思うので問題はないと思えます。ただ、全く教育機関がない地区が生じますと、子どもだけでなく地域の大人に対しても影響があるのではないかと感じます。細江委員が言われたように、子どもを中心に地域や学校が関わっていくという図ができていますが、学校は大人が教育に携わる拠点にもなっていました。地域から教育機関や教育の要素がなくなってしまうと、本来下呂市が目指すコミュニティスクールなど、そういった勢いをなくしてしまうことにならないかなと思えます。その意味で、今後このような統合がある場合、もちろん保護者の発案によって、保護者の希望で進んでいきますが、それが一カ所、二カ所に集中していくことがどうなのか、そういったことも少し考えていった方がよいのかなと個人的には思えます。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。小口委員お願いします。

○小口教育委員

三木委員の意見を聞いて、前回の金山小学校の統合も今回の中原小学校の統合もそうですが、子どもたちはこども園で同じになり小学校で別れ、中学校でまた同じ学校になります。自分が住んでいる地域も同じ状況です。小学校がなくなってしまうと学校が地域からなくなってしまうということ、これは時代の流れからしょうがないことなのかなと思えますが、なんとか子どもたちが地域と触れ合えるような機会を作ってほしいなと思っています。馬瀬中学校が萩原南中学校と統合した際、萩原南中学校のクリーン作戦を馬瀬で行ったり、資源回収も馬瀬に合わせてやってくれました。そういった工夫をしてくれています。そういうことを考えると、きっと新しい学校でそういった工夫をいっぱいしてくださると思います。ただ、今の学校の規模から考えると、将来的に萩原・下呂・金山に学校が集まってしまいうこともあるかもしれません。そういったことも視野に入れて考えていかないといけないと思えます。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。一通りご意見をお伺いする中で、人口減少でやむを得ない、賛成だという意見がある一方で、横の繋がりが薄くなるのではないか、あるいは保護者の意見で統合を進めていった場合、コミュニティスクールなど地域が子どもと関わる機能が低下

するのではないかといったご意見をいただきましたが、教育委員会事務局からご意見がありましたらお願いします。教育長、お願いします。

○細田教育長

皆様のご意見をお聞きし、教育委員会として心しないといけないことは、「寂しい」という言葉に表れていますが、その地域で長い歴史を刻んできた学校を閉じるということがどうということなのかということを中心に留めて統合を進めていかないといけない、そして統合後も考えていかないといけないということだと思いました。

次に、明るいお話ですが、統合した後「友達が多いと楽しい」という子どもたちの声がたくさん聞こえます。これを芯にして「統合してよかった」と言っていたような統合になるよう、準備、展開していかないといけないと思います。

最後に、先日の下呂地区の説明会でもお話しましたが、私が小さい頃と教員だった頃と変わってきたことは、学校だけでは教育は成り立たないという部分です。学校が閉じられるとそこで学ぶ子どもたちの姿は見られなくなりますが、ただ、地域で今までやってきた子育てや人づくり、そういったことはなくなっちゃいけない。コミュニティスクールや地域学校協働活動の趣旨はまさしくそこにあります。教育は学校だけでなく地域や家庭と連携してという認識で、お互いの地域の良さをシェアし合うような統合にしていかないといけないことを肝に銘じ、方針決定された際は、そういったことを考えていかないといけないと思います。

○山本企画課長

ありがとうございました。吉田局長、お願いします。

○吉田教育委員会事務局長

説明会等で住民の皆様の意見を聞きましたが、本当に子どもたちのためにどうしたらよいかという目線で一生懸命考えていただいていたいました。大人の都合ではなく、子どもたちのために真剣に考えたご意見をいただきました。その中には、子どもが少なくなったという寂しい思いもありますが、子どもたちの未来や将来に向けてどうしたらよいかという点で考えていかないといけない、そして地域のつながりをなくさないようにというご意見もいただいております。そして、統合することで子どもたちの未来がよい方向に向いていくといいという意見もいただいております。自分も地元が金山なので、金山の統合の際は当事者という面もありましたが、地域が一つにまとまる機会にもなります。いい方向に向かっていけばよいなと思います。以上です。

○山本企画課長

ありがとうございました。その他に追加のご意見がありましたらお願いします。細江委員、

お願いします。

○細江教育委員

私は教育委員の前に社会教育委員を10年務めました。15年前、ちょうど学校中で協働・連携という言葉が盛んに使われましたが、社会教育においてはもっと前からその話がありました。学校とどのように協力して子育てをするのかという点が、社会教育の原点です。そういったことを考えると、学校がなくなった時、形はありませんが組織はあります。そういった組織が存続する限り、子育てに地域のみんなが関わっていくということになるのではないかと期待しています。

質問ですが、中原小学校の生徒数は急降下していますが、上原小学校はどうでしょうか。

○吉田教育委員会事務局長

現在、中原小学校は34名、上原小学校は37名。推計によりますと、令和9年度には中原小学校は8名ですが、上原小学校は43名となる予定です。ただし、一時的なものかもしれませんので、しっかりと考えていく必要があるかなと思います。ちなみに、現在竹原小学校は141名で、令和9年には152名まで増加する予定です。

○細江教育委員

どうして上原小学校の話をするかといいますと、中原と上原の保育園が閉園した時、中原の子どもはわかばこども園へ、上原の子どもは竹原こども園に行きました。なぜ上原の子どもは竹原こども園だったのでしょうか。普通に考えると、将来的には下呂中学校に行くのでわかばこども園に行くと思いますが、なぜ保護者は竹原こども園を選択したのでしょうか。

○野村市長公室長

以前、児童福祉課長を務めておりましたのでお答えします。当時、竹原こども園が新築されましたので、その関係で保護者は竹原こども園を選択したと聞いています。

○細江教育委員

現在は下呂中学校へ行くという流れですが、竹原中学校に行くということにはならないですよ。

○野村市長公室長

はい、その流れは変わらないと思います。

○細江教育委員

保護者のご意見で統合先が決まるのはおかしい気がします。なぜ竹原かというところが

不可解でしたので質問させていただきました。

○小口教育委員

こども園の統合の際は、このような説明会は行いますか？

○野村市長公室長

市民の皆様で構成する「下呂市子ども・子育て会議」で意見交換をしながら進めています。地域に対しては、保護者の方中心に説明をしています。

○小口教育委員

承知しました。

○山本企画課長

それでは、この統合に関しまして下呂市の方針について最終確認をさせていただきたいと思えます。資料の3ページにある3つの項目、(1) 下呂小学校と中原小学校の統合の可否、(2) 統合後の校舎を下呂小学校とすること、(3) 統合の期日については令和5年4月1日とすること、この3点について、1点でも反対の方がございましたら挙手をお願いします。

(挙手 0人)

それでは、反対の方はいないということで、3つの項目についての市の方針は、本会議で意見の一致とさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

続きまして、議題(2)「下呂市教育大綱の最終案について」ということとさせていただきます。資料は別途配布させていただいておりますが、資料No. 1からNo. 4まででございます。

教育大綱については、第1回から書面開催をさせていただいた3回目に至るまで、皆様方から活発なご意見をいただいて今回最終案をお示しさせていただきました。3回目が書面開催だったということで、簡単な振り返りを行った後、今回の最終案の方のご説明という流れとしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

まず、資料のNo. 1とNo. 3をご覧ください。No. 1には、教育大綱が並べて掲載してございます。左側の教育大綱が第2回目の時にお示しをした教育大綱でございます。右側が3回目の書面開催した時にお示しした教育大綱案です。つまり、2回目にいただいた意見を踏まえて3回目をお示ししたというのが前回まででございます。3回目でお示しした教育大綱を見ていただくと、黄色で塗ってある箇所があるかと思いますが、ここが2回目の意見を踏まえて3回目に修正して皆様に書面でお示しをした箇所でございます。そして、修正案を

まとめたものが、資料No. 3でございます。時間の都合上、主だったものをいくつかピックアップさせていただいて簡単に振り返りをさせていただきます。

まず資料No. 3の1番と2番のご意見をご覧ください。小口委員からいただいたご意見ですが、＜目指す姿＞の「子ども」のところで、前回「地域の課題に向き合う」という表現がありました。子どもが学ぶ中で前面にそれを出す必要があるのか、地域と向き合うという表現がしっかりと馴染まないというご意見、それから「困難にチャレンジしていく子ども」という表現に関して、基本理念では「生きる力を育む」という表現があるので、「チャレンジしていく」という表現だけでよいのかという趣旨のご意見をいただいたところです。それを踏まえまして、事務局の方で考えました修正案が、一番右側の列の太字にしてある所でございます。「地域と触れ合うなかでふるさとへの誇りを持ち、自ら学び、考え、行動できる「子ども」としております。修正前は、いきなり「ふるさとに誇りを持ち」という言葉から始まっていましたが、ふるさとへの誇りは、経験や学習があつて初めて持てるものであるのではという考え方から、「ふるさとへの誇りを持ち」という表現を最初に持ってくるのではなく、そして「自身が地域の課題に向き合う」という表現をもう少し柔らかくして、「地域と触れ合うなかでふるさとへの誇りを持ち」に修正しました。そういった経験を踏まえてふるさとへの誇りを持つというようなことにすべきでないかという事務局の案を、3回目の書面会議でお示ししたということです。

また、「チャレンジする」という部分について、「生きる力を育む」という考え方から踏まえますと、子どもには「自ら学び、考え、行動できる」という基本的な部分が大事ではないかという考え方でこういった表現に変えさせていただきました。これを3回目の書面会議でお示しをさせていただきましたが、特段反対意見や修正意見等はいただいておりません。

続いて、3番のご意見ですが、こちらも小口委員からいただいた意見でございます。＜目指す姿＞の「学校」で、「笑顔があふれる学校」という表現について、学校というのは本来子どもたちに生きる力をつける場所だということで「笑顔があふれる」だけでよいのかといった趣旨のご指摘でございました。そこで、本文に少し修正を入れさせていただきましたが、「社会に開かれ、生きるための確かな力を育む学び舎となることで」という表現を付け加えさせていただきました。これにつきましても、修正意見等はいただいておりません。

続いて、資料No. 3の2ページ、7番の意見をご覧ください。これについては、河尻委員からのご意見でございます。基本方針の取組の中に「妊娠期から途切れることのない親としての学びの機会やつながりの充実を図ります。」とそういった施策を書かせていただいておりますが、ここにつきましては「妊娠」という単語に対して、なかなかお子さんを授からない方がいらっしゃるのでは配慮が必要ではないか、あるいは、親御さんでなくても子育てをしていらっしゃる方もいらっしゃるのでは「親」という表現はどうかというご指摘をいただいたところです。そういったご指摘を踏まえまして、「保護者の学びの機会やつながりを生み出す家庭教育支援の充実を図る。」とそういった表現に修正させていただきました。この修正案についても、ご意見等はいただいておりません。

最後に10番の意見をご覧ください。こちらは教育委員の皆様ではなく、社会教育委員の方から頂いたご意見です。〈目指す姿〉の「家庭」のところで、保護者がまずご家庭のお子さんの子育てをしっかりと責任を持つということが必要ではないかといったご指摘がございましたので、修正後は「家族としての責任を自覚し」という表現を含ませました。いくつか主だったところのご紹介をさせていただいたのですが、第2回目から3回目の流れとしてはこういった修正をさせていただいております。

今回は第3回目で提出いただいた意見に対して、我々事務局からお示しする最終案ということになります。そこから先の説明につきましては資料No. 2と資料No. 4でご説明をさせていただきたいと思っております。ここからは担当からご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○企画課富士井

皆様、お疲れ様です。企画課の富士井です。それでは、次期教育大綱の最終案について説明させていただきます。資料2をご覧ください。この最終案は、書面開催となりました第3回で提出頂いたご意見をもとに作成しました。それでは、どのようにこの最終案を作成したのか、第3回で提出いただいたご意見とともに説明させていただきます。資料4をご覧ください。第3回目では、3つの項目についてのご意見を提出いただきました。1つ目が、教育大綱の基本理念、目指す姿、基本方針の文言に対するご意見です。そして、いただいたご意見をまとめたものが1ページの表のとおりとなりますが、文言の修正に至るようなご意見はございませんでしたが、3つ目の意見をご覧ください。三木委員から、〈基本方針〉のスポーツに掲げる取組についてのご質問がありましたので回答させていただきます。どのような取組の内容かといいますと、資料2の基本方針、スポーツに記載される1つ目の取組をご覧ください。一度読み上げます。「競技だけでなく、生涯を通じた全てのスポーツ活動を推進するための新たな体制づくりを行います」とあります。頂いたご質問は、最初の「競技だけでなく」という文言がどこの箇所にかかる文言なのか、そして、「競技」と「全てのスポーツ活動」の違いは何かという質問でした。この取組の担当課でもある市民活動推進課のスポーツ係にも確認したところ、三木委員のご意見のとおり、「競技だけでなく」は「全てのスポーツ活動」に係るとのことでした。一般的に「スポーツ活動」と言いますと、陸上や野球など「競技スポーツ」が念頭に浮かぶ場合が多いと思っております。そこで、「競技だけでなく」という文言を文頭に記載しまして、競技以外のスポーツ、例えば、ヨガやウォーキングといった心身の健全な発達等を目的とする活動も「スポーツ活動」の中に含まれていることを強調しています。以上が大綱（案）の文言に対するご意見でした。

○山本企画課長

三木委員のご指摘は「競技だけでなく」という表現自体がなくても、「全てのスポーツ」

とその後で言っているのですが、もしかしたらそこがいないのではないかというような気持ちでご質問されたのかなと我々としては読み取ったのですが、正直スポーツ係の方もこだわる部分ではないと、あってもなくてもどちらでも良いのだけれども説明のために、スポーツと言った時にやはり競技スポーツを最初に思い浮かべる方が経験上多いというようなところで、それだけじゃなく、それ以外もすべて含まれるのだということを強調させていただきたいという意味でつけさせていただいていると、そういった回答でした。ですので、企画課としてはこのままいかせていただきたいと思っておりますが、趣旨としてはそういうことでよろしかったでしょうか。

○三木委員

そうですね。

○山本企画課長

ありがとうございます。続きまして次の説明をお願いします。

○企画課富士井

それでは、2ページをご覧ください。

2つ目は、第2回目で三木委員からいただいたご意見ですが、この次期教育大綱の対象者が、子どもだけでなく大人も含むすべての市民であるということが、伝わるような工夫をするとよいというご意見をいただきまして、基本理念概要1行目の文字を加工し、見た方の目を引くようなデザイン案を3点作成し、皆様からこのデザイン案についてのご意見を提出いただきました。そのご意見のまとめがこの表のとおりです。No. 3のデザイン(案)が良いというご意見が最も多かったことから、No. 3の「大人も子どもも」の部分強調したデザインに決定させていただきました。

続いて、3ページをご覧ください。3つ目は、第2回で、<目指す姿>の図について様々なご意見をいただきましたので、事務局でいくつか案を作成しました。案については、4～7ページにまとめてございます。第3回でこれらの案についてご意見をいただき、提出いただいたご意見のまとめがこの表のとおりとなります。様々なご意見を頂き、これらの案の中から1つ選ぶことが難しかったので、まずは皆様のご意見をまとめました。表の右端「事務局の回答」という欄をご覧ください。皆様のご意見をまとめますと、「連携・協働」の文字を入れるというご意見が、3名。「地域」、「家庭」、「学校」を結ぶ線をただの線ではなく、相互に向かう矢印にするというご意見が2名、そして、これらの案を作成する際に、下呂市の教育資源である「自然」を図の中に取り入れたらどうか教育委員会事務局からアイデアをいただきましたので、7ページにあるNo. 10の図を作成したところ、これに歴史も含めてみてはどうかというご意見が1名ありました。これらのご意見をまとめまして、事務局で作成しましたが、この図になります。子どもと地域、家庭、学校を結ぶ黒塗りの矢印は

「教え学びあう関係性」を、地域、家庭、学校を結ぶ相互の矢印は連携・協働を、そして緑色の円は下呂市の自然や歴史といった豊富な教育資源を表しています。事務局といたしましては、この図を最終のものとして、次期教育大綱に掲げたいと考えております。

以上、これらの3つの項目に対するご意見をもとに作成したのが、資料2の最終案となります。以上で最終案の説明を終わります。

○山本企画課長

ありがとうございました。今ご覧いただいた資料No. 4の8ページにはその他のご意見をまとめています。最後に別途時間をとってご説明させていただきます。

それでは、富士井から説明したとおりでございまして、「大人も子どもも…」という表現を少しキャッチーにしたらいかがかという前々回の意見を踏まえて、いろいろとデザインを考えてみました。そして、多数決になりますが、今お示した「大人」と「子ども」という文字を少し大きくするという案が良いという意見が多かったということです。

それから<目指す姿>の図に関しても、単なる実線ではなくて双方に向かう矢印で円を結んでどうかという意見。それから、「連携・協働」や「学び合い」という基本理念で謳っている言葉を図の中に入れてはどうかという意見。こういったご意見を基に、今お示した図にさせていただきました。「連携・協働」は白塗りの矢印、それから「学び合い」は黒塗りの矢印というようなことで変化を持たせています。さらに、背景に下呂市の歴史や自然を表す薄緑色の円を付け加えました。いずれも、基本理念を表す図として位置づけております。富士井から説明させていただいた内容について、何かご意見等ありましたら、お願いいたします。なお、事務局としてはこれを最終とさせていただきたいと思っておりますので、もしご意見がありましたら、最終的には事務局の方に任せていただいて、何とか反映させたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○小口委員

この図について、自分は下呂市の歴史や自然が下呂市全体を包む姿が根本にあると思ったので、意見を書きましたが、これを見ると「家庭」、「学校」、「地域」がその円から出ています。円の中にそれらを全て含めると、私が考えたことに近いのではないかなと思います。

○山本企画課長

承知しました。それでは、全てが円の中に包まれるよう、きちんと修正したいと思います。

○小口委員

四角で囲ったらと書いたつもりだったのですが、伝わらなかったですね。

○山本企画課長

申し訳ありませんでした。

その他よろしいでしょうか。それでは、今、小口委員からいただいた意見につきましては、事務局の方で責任をもって修正させていただきます。

それでは、最後に資料 No. 4 の 8 ページについて、事務局の方から改めてご説明をさせていただきます。よろしくお願いします。

○企画課富士井

それでは、8 ページをご覧ください。第 3 回目では、その他のご意見を募ったところ、次の 3 つのご意見をいただきました。1 つ目のご意見をご覧ください。公表方法に関するご意見です。公表方法については、3 月に開催される委員会で報告した後、「学校や子ども園等への周知」、「下呂市ホームページへの掲載」、「広報紙への掲載」、教育大綱の関係部署だけでなく庁内の各部署への周知、下呂市メールでの配信、お母さん方が集まる下呂市オーガニックワークプレイスなどからの情報発信を計画しています。ここで、河尻委員からは周知の際に高学年や中学生の子どもたちにもわかるような表現に置き換えたものを添えて公表したらどうかというご意見をいただきました。事務局といたしましては、次期教育大綱は子どもも含めすべての市民を対象としたものでありますので、幅広い世代の方々にご理解いただけることが重要であると考えております。そこで、教育大綱を公表する際に、策定の考え方や趣旨などをわかりやすい表現で添えることを検討しております。

次に、2 つ目と 3 つ目のご意見ですが、細江委員から次期教育大綱の基本方針に掲げる様々な取組の展開や効果検証に対するご意見をいただきました。事務局としましては、総合計画を基調として構成した今回の次期教育大綱と総合計画で掲げる重要施策を推進するための「総合戦略」には、繋がりがあると考えております。そこで、教育大綱の効果検証の際は、総合計画や総合戦略の効果検証結果を取り入れながら進めていく予定です。

長くなりましたが、その他ご意見の説明は以上になります。

○山本企画課長

それでは、少し補足させていただきます。

1 つ目の公開方法については、第 2 回目の時からいただいていた意見でして、今回まで回答できなかったのですが、我々としては、今、富士井が申し上げたとおり、あらゆる広報手段をもって、周知していきたいと考えております。そのうえで、今回はいろいろなご意見をいただいて作成したので、補足するような文章を添えて公表させていただくことで、これをご覧いただいた学校の先生ですとか、それ以外の皆様の業務やいろいろな家庭で参考としていただきたいと考えております。教育大綱をわかりやすい表現に置き換えて作り直すというのは少し難しいので、解説版のようなものを附属資料として付けたいという考え方はあります。

それから細江委員と三木委員からいただいた施策の検証の仕方の話につきましても、下呂市第二次総合計画という下呂市の最上位計画がございますが、毎年その効果検証を行っておりますので、その際に教育大綱で謳った取組についても一体的に効果検証を毎年進めていくということをしたと考えております。

事務局の方からの説明は以上になりますが、何か今のところでも結構ですし、何か言い残したこと等ございましたら、お願いします。

○富永委員

<目指す姿>の図について、個人的な考えでは図の中に沢山注釈をつけなくていいと思います。自分が矢印をつけた方がいいという意見を申し上げたのですが、先ほどの小口委員の自然が全体を包み込んでいるとおっしゃっていましたが、自然や歴史は円で表現するのでしょうか。イメージで解釈すると、円ではなく緑色の山のような形が全体を包んでいる図にすれば、あまり説明はいらぬような気がします。

○山本企画課長

ありがとうございました。我々も最初は「連携・協働」や「学び合い」という言葉を入れず、図だけで表現したいと考えておりました。その理由は、下呂市の市章を例にとりますと、緑と青の曲線とオレンジの円で「G」を表しており、中央の円は「温泉」を、緑の曲線は「自然」を、そして青の曲線は「清流」を表していますが、わざわざ謳っておりません。国旗も一緒に、それぞれ意味がありますが、そこに注釈はありません。最初は市章や国旗と同様に図だけで表現したいと考えておりましたが、皆様からいただいたご意見の中には、こういった「連携・協働」という言葉を入れた方が良いのではないかという意見が多かったということ、また、子どもが教育大綱を見る機会もございますので、文字を入れてわかりやすくする方を優先することとし、今回の案をお示しさせていただきました。

そして、後ろの円が自然を表しているのかという点については、難しいところだと思います。円ではなく山にするという方法もあるとは思いますが、それがよいかどうかはデザインの話で思いがあると思います。実は、当初の事務局案では円ではなく二重の円を考えていました。「歴史」を表す黄色の円と、「自然」を表す緑色の円です。しかし、自然と歴史だけでよいのかということで、包括的に「自然など」という意味合いで一つ緑色の円で表すぐらいしか我々としては思いつかなかったというところがあります。こういった経緯でこのような形にさせていただきました。図を見て全てをわかるようにするというのは難しいので、先ほど言った補足の文書の中で、わかりやすく皆様にお伝えしていきたいと考えております。

○河尻委員

今の図に関して、【凡例】も教育大綱に掲載されるのでしょうか。

○山本企画課長

あくまでもこの資料上で、皆様にわかりやすくするために掲載したもので、教育大綱に掲載する予定はございません。

その他ご意見等はよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、今ご説明したような内容で、次期教育大綱の策定という形にさせていただければと考えております。議題（２）については、以上になります。

最後になりますが、今回の議題以外のことでご意見等ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは最後に市長から今回の会議の総括のお言葉をお願いいたします。

○山内市長

大変熱心なご審議いただきましてありがとうございました。中原小学校の統合に関する下呂市の方針ですが、教育委員の皆様からは概ねご賛同いただいたということで、最終的には下呂市としてお示しをするということで、ここで方針が決定したというふうに理解してよろしいでしょうか。私も方針にはほぼ同じ意見です。そういうことで、教育委員の皆様にはご理解いただいて良いということですね。

ありがとうございました。皆様方のご意見を尊重させていただきたいですし、私も皆様のご意見のとおりだと思っておりますので、この方針で進ませていただければと思っております。どうぞよろしくご理解いただきたいと思います。

今回、皆様のご意見を聞いておりますと、どなたもお認めのとおり、学校統合というのは子どもにとっては良いことなんですね。あとは学校が無くなる地域をいかに活性化していくか。そして大人も子どももその中でどのように地域社会を育んでいくか。そこが我々市に課せられた大きな課題だと感じます。もちろん地域の方のご協力が必要ですが、大きな問題だと考えております。また、廃校になった学校の活用方法についても、今後我々も皆様方と協議をしていきますが、その他にも、委員の皆様からいろいろなご意見を伺いました。例えば、小学校で言えば、生徒数が 100 人以下の学校でも、子どもたちはその中で学んでいます。そして片や統合して生徒数が 100 人以上の学校ができています。その辺の偏りについては我々もしっかり今後見直す必要があり、委員の皆様がおっしゃったように、今度は学校間の交流などを行い、子どもたちの学習などの均衡も図っていく必要があるのかなと思えます。やはり、統合して大きくなった金山小学校でも、子どもたちの生き生きした顔を私も拝見しました。現在、小さい学校で学ぶ子どもたちにも同じように笑顔になってもらえるような環境を段階的に作っていく必要もあるのかなというのを考えさせられたところがございます。

地域づくりについては、振興事務所の強化ということで、組織再編についてご説明をさせていただいております。若干我々の思いと違う話も出ており、下呂だけ部長が配置され、他

の地域は次長だというそういう話もありましたが、組織上、旧5町村すべてに次長ポストがございますし、振興事務所の機能的には何ら変わりはありません。その上に5つの振興事務所を統括する地域振興課、そして地域振興部長を配置します。今まで、私は5つのみたらし団子がちゃんとそろっているという話もさせていただきましたが、実は今は均等ではあってもバラバラの団子であって、串が刺さってないのです。ですから、そこにしっかりと串を刺して同じように各地域が公平性をしっかりと保てるように、それぞれの偏りがないように調整して、連携させるのが地域振興部ということで、人数的にも増えます。皆様のご指摘のとおり、地域をいかに活性化させて、地域の過疎化や住民の皆様の不安感を取り除くために、我々は地域振興部を立ち上げさせていただいております。下呂の場合、同じ建物の中に部長と地域振興所長がいることになるので、組織上の兼務という形にして部長が下呂振興事務所長を兼務する形にしたので、誤解を招くことになり、下呂だけが部長で不公平じゃないかというようなお話もいただきましたので、その辺りは修正をさせていただきますが、いずれにしても部長がいるから、課長がいるからとかではなくて、組織は機能性です。住民の皆様に対していかに奉仕ができるか、そして住民の皆様の声がしっかりと聴けるかということですので、「仏作って魂入れず」ではいけません。しっかりと魂が入ったものを我々がこれからしっかりと住民の方々にも提供していきたいと考えております。

そんな中、教育大綱を拝見しましたが、大変素晴らしいものを皆様のご意見を基に作っていただきました。基本方針の中の4つを見てみると「学校教育」は教育委員会で進めていただく。その下の3つは、我々行政に課せられた大きな課題であります。今回、現在の市長公室を組織改編して、まちづくりを推進するための部を作ります。地域振興部とまちづくり推進部は連携して、地域づくり、まちづくりを進めていきます。「社会教育・家庭教育」を地域の中でどのようにして行っていくか。例えば、萩原南子育て広場にお母さん方が集えるように、新年度予算をつけて整備していきます。そして、「文化芸術・歴史・文化財」について言いますと、下呂市として見ると弱いところがあります。ところが、旧町村時代の資料を見ると非常に素晴らしいものを作っています。例えば、金山では金山文化財という資料を作っています。しかし、下呂市になってからこういった資料を作ったことがあるかというとならないのです。まとめたものはありません。新年度、学芸員を1名雇用できるような方向性が見えてきましたので、その方と一緒に、いろいろな旧町村で整備されました文化財、歴史そういうものをもう一度しっかりと見つめ直して良いものを作り、子どもさんにもそれを学習に使っていただければという思いです。最後は「スポーツ」です。これからやりたいことはスポーツの環境整備と施設整備です。下呂市内のスポーツ施設はほとんど古く、無いとまで言いませんが、全国大会や県大会ができる規模の施設がなかなかございません。テニスコートの件についてはご心配をおかけしましたが、3月にはしっかりとしたテニスコートがオープンします。県大会などできるだけの施設です。これからまちづくり推進部でどのように「スポーツ」を推進していくか。それについては当然、優先順位があります。そういうことも地域振興部を作れば、各地域の中でどこにこういうスポーツ施設が必要か、どこをどうす

ればよいのかということを検討することで優先順位もつけることができるようになります。こういうことを地域振興部とまちづくり推進部がしっかりとタッグを組み、下呂市に住んでいる皆様がスポーツ、文化、そして公園整備などを一緒になって進めます。こういうことがこの教育大綱の中にすべて込められているのかなと思います。教育大綱を拝見して、我々がこれから推進するまちづくりは、教育にも結び付いていくのだと改めて実感させていただきました。そして、先ほど申し上げましたが、この大変素晴らしい教育大綱を多くの市民の方いかに周知していただくかということが大事だと思っておりますので、広報などを利用して市民の皆様に浸透していくように努めてまいりたいと思います。

簡単ではございますが、本日は大変貴重なご意見いただきましてありがとうございます。

○山本企画課長

ありがとうございます。それでは、閉会の挨拶を市長公室長から申し上げます。よろしくお願いたします。

○野村市長公室長

皆様、本日はお疲れ様でございました。本日の2つの議題は大変重要なものでございましたが、熱心に協議いただきまして、大変参考になるご意見を頂戴いたしました。私たちはこれから皆様のご意見を踏まえながら、お認めいただいた方針に従って進めてまいりたいと思います。まだまだこれから詳細をいろいろと詰めてまいります、その中でまたご意見を賜りたいと思います。そして、至らぬ点がございましたら、遠慮なくご指導いただければと思います。本日はありがとうございます。

それではこれもちまして総合教育会議を終了させていただきます。